

資料：戦時下における国語問題・海外日本語進出論 ——朝日新聞記事 1937 年～1945 年を中心に——

田中 寛

Materials: Some Aspects of Japanese Language Problems

and Japanese Overseas Expansion during War II :
Centering on Articles of *ASAHI Newspaper* (1937-1945)

Hiroshi TANAKA

1. はじめに

戦時下帝国日本は対外戦争の過程で、これまで経験したことのない広範囲な言語文化接触に遭遇した。そこでは言語問題に限っても国内問題と国外問題が激しく拮抗し合う現象が生まれた。従来の国語学史、日本語学史では主要な学説、刊行著書の記述にとどまるのが慣例であったが、さまざまな現場の状況はそこからは再現されにくい。

『戦時期における日本語・日本語教育論の諸相』（田中 2015）の巻末附録には、当時の多くの雑誌に掲載された国語論、日本語論（国語教育、日本語教育を含む）の主要記事を年代別に採録したが、新聞記事についてはほとんど取り上げなかった。本稿はその補遺として、戦時下の国内では国語国字問題、対外的には日本語の海外進出に関わる新聞記事を収録した。期間は日中戦争勃発以降、1945 年の敗戦までの戦時体制下（総力戦体制下）とした。

新聞は当時の状況をリアルタイムで紹介する貴重な一次資料である。新聞メディアとしては他の媒体（たとえば読賣新聞のデータ）も参照すべきであろうが、朝日新聞復刻版が比較的容易に参照できること、および一般的な世相をも網羅しているであろう、との判断によった。時間的な関係から今後の検証課題としたい。

2. なぜ戦時期の国語・日本語問題を検証するのか

国語と日本語、それはあたかもコインの両面のようなものである。一般に〈国語〉とは母語としての言語、すなわち生まれて後、幼年期から言語形成にかけて、日常的に自然に、あるときは無意識に身につけていく言語であり、〈日本語〉は世界の言語の一つとして、ときには外来の風圧を受け

ながら試練にさらされる言語であるとされる。日本人はいわば国語を「母」とし、日本語を「父」として世界を見、語ることになる。しかし、その線引き、境界は複雑錯綜し、日本が国際化時代に直面するたびに、両者の拮抗、輻輳する状態が生まれてきた。この継続は時代を問わず、もはや普遍的現象でさえある。

日本が国際化時代に直面する時代、と書いたが、その状況がもっとも尖鋭的にあらわれたのが戦時期であった。自国文化の正統性を主張せんがために、国内においては国語による国民統制が指向され、外に向けては自国文化を発信する母体としての日本語が喧伝された。戦間期から戦時下にかけて、夥しい国語論、日本語論が生産された。そこでは国語は内に向かう〈求心力〉、あるいは〈伏角〉と意義づけられ、日本語は外にむけての〈遠心力〉、あるいは〈仰角〉と意義付けられよう。日本人は意識すると否とを問わず、ときに国語を、ときに日本語を、使い分けてきているのである。それはまた、近代国家言語意識の宿命ともいえよう。

戦後七十年目の自らの言語観の立ち位置を見つめる試みとして、筆者は『戦時期における日本語・日本語教育論の諸相』（ひつじ書房）を日本学術振興会科学研究費助成物支援を受け江湖に問うた。上梓以後、多くの方からのご批評をいただき、さらなる検証、補遺を感ずるようになった。その基底には上述したように国語の視点と日本語の視点の交錯するところに何が生まれたのか、という疑問が介在した。とりわけ海外に向けての言語文化発信という観点から、書名も日本語に集約したのだが、気持ちのなかでは国語問題がずっと影を落としていた。また、同書の巻末附録には詳細な日本語・日本語論の年表をかかげたが、そこにも国語問題の論評を多く内包しながらも日本語に収斂させざるをえなかった。加えて年表には新聞に掲載された国語・日本語問題の記事を収録し得なかったこともあり、あらためて問題の検証に取り組むことにいたったのである。

前著刊行後も引き続き国語・日本語論の検証の渉猟につとめてきたが、本稿では重点的に朝日新聞の連載記事を年代別に採録した。記事には当代を代表する国語学者、文化人による具体的な問題意識を多く含んでおり、また新聞という公共的性格からみても戦時下において何が問題提起されていたのかを客観的に探る意義もある。

3. 戦時期における国語問題、日本語普及関連記事の経緯

本節では朝日新聞(1937 - 1945)掲載の国語問題、および海外における日本語普及に関する記事のうち、連載され比較的まとまった論考をあげ、便宜的にタイトルをあげ整理を試みることにする。連載は二回ないし三回にわたるが、分量は一回あたり二千字前後である。一般読者向けにこうした議論を展開した事実は、いかに当時、国語・日本語問題が国民統制、海外文化戦略において重要視されていたかを物語っているといえよう。以下、テーマ別に5分類にして整理を試みたが、1938年から1942年にかけて集中している点も特徴的である。数字は回数および掲載年月日である。他の主要記事をふくめ、近い将来において文字化を予定している。

3.1 日本語の純粋性

- (1). 山田孝雄「日本語の純粋性」(1) - (3) 1938.6.24-6.26

- (2). 柳田國男「ボク・キミ問題」(1) - (3) 1938.11.6-11.8
- (3). 小林秀雄「現代日本の表現法」(1) - (3) 1938.12.10-12.12
- (4). 山田正紀「国語のこころ」(1) - (3) 1942.7.1-7.3

ここでは、一般の国語問題について読者に関心をいだかせる日常の身近な話題が取り上げられている。文法研究家のみならず、文芸評論家、民俗学者までが文字通り、総動員されている感がある。

3.2 言語政策・方言問題

- (1). 松前重義「言語政策と技術」(1) - (3) 1939.3.7-3.9
- (2). 清水幾太郎「沖縄の標準語励行に関して」(1) - (3) 1940.3.25-3.27
- (3). 柳田國男「方言問題の統一について」(上) (中) (下) 1940.10.15-10.17

言語政策問題では民俗学者の立場から方言問題についての諸言のほか、沖縄の言語問題について言及している清水幾太郎の論説にも注目したい。

3.3 漢字・文字・表記の問題

- (1). 保科孝一「漢字字体整理案」(1) - (3) 1938.7.25-7.30
- (2). 石黒修「ふりがなの廃止」(1) - (3) 1939.2.7-2.9
- (3). 山本有三「仮名の改良案について」(1) - (3) 1941.1.14-1.16
- (4). 安藤正次「字音仮名遣いの整理について」(上) - (下) 1942-7.21-7.22

文字表記の問題は国語の醇化、分かりやすさを日本国民に意識化させると同時に海外への普及にも重要な布石となり得た。ここでは文学者の提言のほか、国語学者による実際の現場の意見もまじえながら議論されているが、これらの諸問題は戦後、現代にまで受け継がれている。

3.4 国語問題・言語問題

- (1). 石黒修「国語改良の問題」(1) - (3) 1938.7.17-7.19
- (2). 石黒魯平「言語問題昨今の容体」(1) - (3) 1940.3.4-3.6
- (3). 新村出他8名「国語問題の検討」(1) - (8) 1941.1.17-1.25
- (4). 倉野憲司「国語問題の国家的処理」(1) - (4) 1941.6.5-6.8

ここでは広く国語問題を扱う議論を集約した。とくに(3)では各界の識者による議論を掲載している。石黒修の論考(1)は日本語の海外進出の基盤を考える意味で重要である。

3.5 日本語の海外進出

- (1). 石黒魯平「大東亜国際語確立の為に」(1) - (3) 1941.7.11-7.13
- (2). 松宮一也「阪谷子爵と日本語」(上) - (下) 1941.11.18-11.19
- (3). 泉井久之助「南方の言語について」(上) - (下) 1942.1.28-1.29
- (4). 新村出、石黒修、西尾實、木村新「日本語の南方進出」1942.4.21
- (5). 石黒魯平「国際日本語確立の根底」(1) - (3) 1942.6.16-6.18
- (6). 神保光太郎他「南方日本語普及の一年」(1) - (17) 1942.11.25-12.19

日本語の最終的の局面としての海外普及論である。主として昭和17年以降に展開されたのが特色である。1942年をピークを境に急速に収斂していくものの、報告され議論された諸論考は現代の言語

政策問題にもつながる、重要な視点をも内包している。

なお、(6)、「南方日本語普及の一年」は連載記事のなかでもっとも掲載回数が多いものであり、昭南(シンガポール)、比島(フィリピン)、バダビヤ、スラバヤ、馬來(マレーシア)、タイ、安南(ベトナム)、ビルマなど、各地の日本語教育の実践報告としても注目される。以下にそれぞれ地域別の記事の見出し・報告者名をあげる。

【南方日本語普及の一年】連載記事

- ① 原住民の要望 昭南市(上) 神保光太郎 1942.11.25
- ② 正しい始動へ 昭南市(下) 神保光太郎 1942.11.26
- ③ つよく深く 科学的な教授法を考えよ バダビヤ 南秋好 1942.11.27
- ④ 教材が欲しい 比島(上) 西之原末盛 1942.11.28
- ⑤ 熱心な住民達 比島(下) 西之原末盛 1942.12.1
- ⑥ 実用一点張り スラバヤ(上) 橘正観 1942.12.2
- ⑦ 指導の三要素 スラバヤ(下) 橘正観 1942.12.3
- ⑧ 熱心な支那娘 馬來(上) 花岡肇 1942.12.4
- ⑨ 願望に応えよ 馬來(下) 花岡肇 1942.12.9
- ⑩ 日本を知るために チャンタラナコラ・ワラワン 1942.12.10
- ⑪ 量よりも質へ チャンタラナコラ・ワラワン 1942.12.11
- ⑫ 教授法に一苦勞 マライ廣田茂信 1942.12.12
- ⑬ 習得に一苦勞 安南① 鈴木健郎 1942.12.15
- ⑭ 平仮名を喜ぶ 安南② 鈴木健郎 1942.12.16
- ⑮ 助詞は厳密に 安南③ 鈴木健郎 1942.12.17
- ⑯ “桃太郎”を上演 ビルマ(上) 上田天瑞 1942.12.18
- ⑰ 文法の質問続出 ビルマ(下) 上田天瑞 1942.12.19

以下、盧溝橋事変による日中戦争勃発の年からアジア太平洋戦争終結までの戦時体制下を対象とし、年次別に掲載された記事の見出しのみをあげた。年月日、号数、記事名の順。重要と思われる記事は濃字で示した。関連記事として教育、出版、文学、言語生活、文化方面の記事(◎)も収録した。□は留学生問題、【】は連載記事の一部。原文は現代仮名遣いに直した。この中には従軍作家(ペン部隊、南方徴用作家)による宣撫工作の現況、戦地報告も含まれている。これらの記事には特定の作家全集、著作集未収録のものもあると思われる。引き続き、調査収集、修訂を続けたい。

注記

データは早稲田大学中央図書館所蔵の朝日新聞縮刷版に拠った。記事の収集は2015年度に、また資料整理は2016年前半期に英国ロンドンにて行った。本研究は2016年度在外研究(英国ロンドン大学東洋アフリカ学院日本研究センター、2016年3月29日から9月4日まで)における研究成果の一部である。

【1937年】 昭和12年 皇紀2597年

- 1937.7.6 18403号 日刊五面
日常語 三好達治
- 1937.9.30 18489号 日刊二面
国民政府通信部、日本語打電禁止
- 1937.10.11 18500号 日刊十面
女性の声 日常の言葉
- 1937.10.21 18510号 日刊三面
戦線の平和郷 「日の丸」部落とは？
- 1937.11.4 18924号 日刊二面
特洲で日本語講習会開催
- 1937.12.1 18551号 日刊三面
這是甚麼（なんですか？）
支那人・日本語学校の図です
- 1937.12.5 18555号 日刊三面
山東の教育復興 特洲の親日教育
- 1937.12.12 18562号 日刊七面
南京陥落に寄す（上） 吉川英治
今や東洋史の一頁を飾る
南京陥落す 佐佐木信綱
征衣霜深し 高浜虚子
南京（一） 村松梢風
- 1937.12.13 18563号 日刊七面
南京陥落に寄す（下） 吉川英治
われら将来の任務に任ず
南京陥落の日に 荻原朔太郎
南京（二） 村松梢風
- 1937.12.14 18564号 日刊七面
南京（三） 村松梢風

【1938年】 昭和13年 皇紀2598年

- 1938.1.7 18587号 日刊六面
婦女宣撫班座談会（上）
目覚めよ支那 敢然として街頭に叫ぶ
乙女ながらも健気な活躍
- 1938.1.8 18588号 日刊六面
婦女宣撫班座談会（下）
小を棄て大に進む
- 1938.1.6 18986号 日刊十一面
“先生も泣きました”
着いた支那人兄弟の手紙
“ボク達”から慰問袋
国語教科書にも神風號の重なる誉
- 1938.1.12 18592号 日刊三面
支那事変と濠洲・新西蘭
意外な日本語熟 本社特派員鈴木文四郎
- 1938.1.21 18601号 日刊十面
「日本を信ぜよ」と支那女性二人
宣撫引き受け、復興へ

- 1938.1.26 18606号 夕刊三面
朗らかな授業 鎮江の親日小学校
- 1938.2.1 18612号 日刊四面
北支の回復につれ各地に日本語時代
列車の中も移動教室
- 1938.2.7 18618号 日刊四面
三十年の体験結晶
濠洲人向きに日本語新読本
- 1938.2.13 18624号 夕刊四面
日本へ帰っちゃいやだよ
勇者達は皆支那の子供と仲よし
- 1938.2.17 18628号 日刊二面
上海街に日本名 松井通や長谷川通
- 1938.2.19 18630号 夕刊三面
抗日の書を焼いて莫干山で“オハヨウ”
海拔二千尺の日本語学校
- 1938.2.24 18635号 夕刊四面
西湖畔より（一） 火野葦平
- 1938.2.25 18636号 夕刊四面
西湖畔より（二） 火野葦平
- 1938.2.26 18637号 夕刊四面
西湖畔より（三） 火野葦平
- 1938.3.3 18642号 日刊十面
東京市、支那文で「東京」紹介
新民学院学生日本視察、十日に出発
- 1938.3.13 18652号 夕刊一面
新民学院学生、訪日
- 1938.3.14 18653号 日刊三面
南京に日本語学校
- 1938.3.14 18653号 夕刊二面
聖戦の別働隊 北支宣撫官・東京班出陣す
- 1938.3.16 18655号 日刊九面
京漢線に和やかな親善風景
戦いの合間に宣撫の辻説法
- 1938.3.16 18655号 日刊十面
大阪医大医学部校友会、朝日新聞社共同主催の北支診療救護班、保定神社建立、鳥居の上棟式。
- 1938.3.21 18660号 日刊十面
敢然、北支の母 硝煙の背後で宣撫
- 1938.3.29 18668号 日刊二面
日本読みに改正 中支の鉄路と駅名
- 1938.4.2 18672号 日刊十面
陸軍、支那語通訳を増員
- 1938.4.8 18677号 日刊九面
校長は坊さん、南京に日本語学校
- 1938.4.15 18684号 日刊三面
建国大学に北京から両博士
- 1938.5.3 18702号 日刊二面
建国大学 入学式を挙行

- 1938.6.7 18737号 日刊六面
国語改良論 板垣直子
- 1938.6.19 18749号 日刊七面
日本語の問題 齋藤茂吉
- 1938.6.24 18754号 日刊七面
日本語の純粋性(1) 山田孝雄
 —その保存についての考察—
- 1938.6.25 18755号 日刊七面
日本語の純粋性(2) 山田孝雄
 —今日の乱雑を導いた漢文漢読—
- 1938.6.26 18756号 日刊六面
日本語の純粋性(3) 山田孝雄
 —この際採るべき手段と方法—
- 1938.6.9 18739号 日刊九面
 オルガンで親善譜 ラジオ体操の作者
 石塚さん、思わぬ宣撫工作
- 1938.6.23 18753号 夕刊二面
 「戦後はまかせて頂戴」
 徐州に積む「宣撫の石」
- 1938.7.17 18777号 日刊六面
国語改良の問題(1) 石黒修
 —山本有三氏の私案について—
- 1938.7.18 18778号 日刊六面
国語改良の問題(2) 石黒修
 —山本有三氏の私案について—
- 1938.7.19 18779号 日刊六面
国語改良の問題(3) 石黒修
 —山本有三氏の私案について—
- 1938.7.28 18788号 日刊七面
漢字字体整理案(1) 保科孝一
 —明治四五年以来の懸案—
- 1938.7.29 18789号 日刊七面
漢字字体整理案(2) 保科孝一
 —不統一きわまる手書体—
- 1938.7.30 18790号 日刊七面
漢字字体整理案(3) 保科孝一
 —その内容と凡例の二三—
- 1938.8.8 18799号 日刊十面
 女学生の君僕言葉
 女は女らしく…敬語を忘れるな
 より一層の戒心に努めよ
- 1938.9.7 18829号 夕刊二面
 紐育摩天楼に翻る日本文化の旗
 新図書館の三氏出発
- 1938.9.7 18829号 日刊十面
 独逸で日本語辞書
 帝大の木村博士が畢生の編纂
- 1938.9.13 18835号 日刊十面
 ペンの戦士、出陣
- 1938.9.25 18847号 日刊五面
- 日本語を習う支那の子供**
東京の児童が使った古教科書を使って
- 1938.9.26 18848号 日刊十面
 海渡る「いのちの初夜」ドイツ交換留学生
 全訳
- 1938.10.3 18855号 日刊六面
 杜撰なる用語 上村賀創
 形容詞の文化 清水幾太郎
 文芸時評 川端康成
 転向作家の歩み 作品に現われた欠陥
- 1938.10.4 18856号 日刊六面
 「キミ」言葉 荻原朔太郎
 文芸時評 川端康成
 日本人のよさ 上田廣の「黄塵」
- 1938.10.24 18513号 日刊六面
 支那の子供たちを可愛がる我が将兵
 至るところで見る嬉しい光景
- 1938.10.28 18517号 日刊七面
 故上田萬年先生 山田孝雄
 *この時期、室生犀星「大陸の琴」連載
- 1938.11.6 18888号 日刊六面
キミ・ボク問題(1) 柳田国男
 文芸時評 川端康成
 葦平の「土と兵隊」大江賢次の
 「鮭と共に」
- 1938.11.7 18889号 日刊六面
 ニッポニズム 木村莊八
キミ・ボク問題(2) 柳田国男
- 1938.11.8 18890号 日刊六面
キミ・ボク問題(3) 柳田国男
- 1938.11.9 18891号 夕刊二面
 漢口の華・母娘宣撫班
 支那の子供と遊ぶ女宣撫班員
- 1938.11.18 18900号 夕刊二面
 広東の紙芝居宣撫班
- 1938.11.21 18903号 日刊二面
 広東の紙芝居宣撫班反蔣放送
- 1938.11.22 18904号 日刊十面
 日の丸と火野葦平軍曹
- 1938.11.23 18905号 日刊十面
 日支親善の大地へ
 交換学生今日出発
- 1938.12.1 18913号 日刊二面
伊軍、日本語学習を奨励
- 1938.12.3 18915号 日刊二面
 抗日の悪夢醒めて 宣撫班の熱弁に号泣
- 1938.12.6 18918号 日刊六面
 文字を読むの愚 杉村楚人冠
 満洲だより 大陸の花嫁 和田傳
- 1938.12.7 18919号 夕刊三面

- 佛山日語学校の親善模様
 「校長軍曹」が先生 押すな押すなの
 盛況 女の先生が三分の一
 五十音を一週間で 煙に巻く達者さ
 1938.12.8 18920号 日刊六面
 文語体 浅野晃
- 1938.12.10 18922号 日刊六面
 現代日本の表現法(1) 小林秀雄
 生きて迫る人間を創るべし
- 1938.12.11 18923号 日刊七面
 現代日本の表現法(2) 小林秀雄
 変わらぬ人間性を捉えた火野
- 1938.12.12 18924号 日刊六面
 現代日本の表現法(3) 小林秀雄
 読者は「健全な人間」を求める
- 1938.12.17 18929号 日刊十面
 □“姑娘”が留学へ
- 1938.12.18 18930号 日刊十面
 してやられた火野軍曹
 相手はユーモア作家中野伍長
 花赤い南支で初の邂逅
- 1938.12.19 18931号 日刊三面
 【社説】東亜建設と教育政策
- 1938.12.22 18934号 夕刊二面
 歌う日支の乙女 姑娘留学生初の入京
- 1938.12.22 18934号 日刊十面
 火野軍曹作品も満人教師が華語に
 「万葉集」を独訳 日独学者の名コンビ
 詩の花束で飾る防共の握手
- 1938.12.23 18935号 日刊二面
 サイトサイト 日本語の花
 南京郊外に親日村
- 1938.12.27 18939号 日刊七面
 【槍騎兵】教育の日本化 石黒修
- 1938.12.28 18940号 日刊七面
 ◎数篇の戦争文学
 林美美子と石川、丹羽の手法 阿部知二
- 1938.12.28 18940号 夕刊二面
 漢口に日本語学校
- 1938.12.29 18941号 夕刊二面
 □支那から留学の波 中小生も来る
 女子は婦徳を学びに
- 異彩放つ岸田國士氏と林女史
 1939.1.7 18949号 日刊七面
 ◎聖戦第三年を迎えて(6)
 非常時ということ 山田孝雄
 略語と韻文 齋藤茂吉
- 1939.1.10 18952号 日刊七面
 ◎聖戦第三年を迎えて(9)
 戦争文学の結実 板垣直子
- 1939.1.18 18960号 日刊七面
 発音法の教授
 支那人に邦語を教える時 山本良吉
- 1939.1.19 18961号 日刊七面
 日本の文化を大陸へ移植
 文藝興亜会を創立
- 1939.1.20 18962号 日刊七面
 【槍騎兵】支那語の問題 神西清
- 1939.2.4 18977号 日刊十面
 黄波には日本語小学校
 宮坂通訳が生みの親
- 1939.2.7 18980号 日刊七面
 ふりがなの廃止(1) 石黒修
 子供雑誌の実際と今後の問題
- 1939.2.8 18981号 日刊七面
 ふりがなの廃止(2) 石黒修
 基本語彙を科学的に調査せよ
- 1939.2.9 18982号 日刊二面
 大陸国策を現地に視る
 挺身・宣撫の辛苦 鉄路を護る隘路村
- 1939.2.9 18982号 日刊七面
 ふりがなの廃止(3) 石黒修
 恵まれたるこの機会を捉えよ
- 1939.2.9 18982号 日刊十面
 大陸の認識へ 開校した支那語学校
- 1939.2.9 18982号 日刊十一面
 支那語を知らず
 絵で教える先生 人気の須賀上等兵
- 1939.2.10 18983号 日刊十面
 「明朗支那」建設へ
 矢口小学校の中牧一等兵が新民学校を開設
- 1939.2.11 18984号 日刊十一面
 爆撃見ながら海南島進撃
 砂又砂の丘を越えて 日章旗の開口へ
 早くも街に宣撫ビラ
- 1939.2.12 18985号 日刊六面
 支那の児童から仲良しの贈り物
- 1939.2.14 18937号 日刊二面
 防共姑娘と苦力塚 蘇州と南京親善便り
- 1939.2.14 18937号 日刊十一面
 霧の街に泳ぐ宣撫班 無言の日本兵に限り
 ない信頼 新海南島・明るい一步
- 【1939年】 昭和14年 皇紀2599年
 1939.1.1 18944号 日刊十二面
 「出発」の命令 岸田國士
 事変第三年を迎えて
- 1939.1.7 18949号 日刊二面
 興亜に歩調合せて 文壇人に渡洋熱

- 1939.2.15 18938号 日刊七面
日本語教育 成澤玲川
- 1939.2.19 18992号 日刊2面
 姑娘浮き立つ 南京二年分の正月
- 1939.2.21 18994号 日刊3面
 我ら海南島へ征く(上)
 不平のない兵隊さん
 坊に「もしも」の便り
 戦争の常識を打破 破壊抜きの建設
 海南島に然し此の辛苦
- 1939.2.26 18999号 日刊6面
 支那の子供を喜ばす童謡隊長さん
- 1939.2.28 18901号 日刊1面
 親日楽土建設へ 海南島・軍宣撫班の活躍
- 1939.3.4 18905号 日刊7面
 支那の子供(1) 佐藤俊子
- 1939.3.5 18906号 日刊7面
 支那の子供(2) 佐藤俊子
- 1939.3.6 18907号 日刊2面
 大陸国策を現地に観る 朝鮮・満洲国篇
 皇国臣民を育成 内鮮一体政策の将来
- 1939.3.6 18907号 日刊七面
 支那の子供(3) 佐藤俊子
邦語の将来 山田耕筈
- 1939.3.7 18908号 日刊7面
言論政策と技術(1) 松前重義
反日思想と宣撫戦
- 1939.3.8 18909号 日刊7面
言論政策と技術(2) 松前重義
通信網による世界制覇
- 1939.3.9 18910号 日刊7面
言論政策と技術(3) 松前重義
- 1939.3.12 18913号 日刊6面
 海南島の子供
 日本の兵隊さんにもらった下駄
 外ではぬいで内でははいて
 珍しがる梅干し
- 1939.3.22 19023号 日刊2面
 楽土広東 外出日ともなれば鈴生りバス、
 道路で銃剣術
- 1939.3.25 19026号 日刊7面
 日伊文化協定を祝して(1) 有馬生馬
 文化協定の意義
- 1939.3.26 19027号 日刊7面
 日伊文化協定を祝して(2) 有馬生馬
 彼我交流の回顧
- 1939.3.27 19028号 日刊七面
 日伊文化協定を祝して(3) 有馬生馬
 両国親善の恩人
- 1939.3.28 19029号 日刊七面
 防共か親英か
 日伊文化協定を祝して(4) 有馬生馬
- 1939.3.29 19030号 日刊十一面
 新支那“嵐の孤児”に教え込む日本精神
 市で東亞百年の大計
- 1939.3.30 19031号 日刊七面
国語の純化 杉隆夫
- 1939.8.27 19180号 日刊二面
 日本語の打電禁止 香港の電報検閲
- 1939.11.23 19267号 日刊三面
**赤きアメーバ 新編第四軍 日本語教育に
 努力 赤化と抗日の二本建て
 (南京にて団野特派員)**
- 1939.11.1 19215号 日刊七面
【槍騎兵】国語の普及 久松潜一
- 1939.11.2 19246号 日刊七面
 ◎对支文化工作の検討(1) 奥野信太郎
 感傷主義の脱却
- 1939.11.3 19247号 日刊七面
 ◎对支文化工作の検討(2) 奥野信太郎
 準備なき建設
- 1939.11.4 19248号 日刊七面
 ◎对支文化工作の検討(3) 奥野信太郎
 正確なる認識
- 1939.11.7 19251号 日刊三面
 ◎帰還兵士の言葉(1) 火野葦平
- 1939.11.8 19252号 日刊三面
 ◎帰還兵士の言葉(2) 火野葦平
- 1939.11.9 19253号 日刊三面
 ◎帰還兵士の言葉(3) 火野葦平
- 1939.12.5 19279号 日刊三面
日本語もこの通り
希望の北京娘 学窓に興亜の使命
- 1939.12.11 18923号 日刊十一面
 笑驚隊・南支へ出動
 同時に慰問映画班 朝日新聞社
- 1939.12.27 19301号 日刊十一面
 校長さんも辞めて宣撫員の一員
 大陸へ首途の二百名
- 【1940年】 昭和15年 皇紀2600年**
- 1940.1.12 18592号 日刊三面
 支那事変と豪州・新西蘭
 意外な日本語熱 本社特派員鈴木文四郎
- 1940.1.21 18601号 日刊11面
 「日本を信ぜよ」と支那女性二人
 忘れぬ留学の恩、今も流暢な東京弁
 「お国の友へ手紙、今こそお礼を」
 宣撫引き受け復興へ

- 1940.1.24 18604号 日刊11面
 童心に植える“桜日本”
 鎮江に可憐の「君が代」
- 1940.1.31 19335号 日刊七面
 東京外語の頃(上) 有島生馬
- 1940.2.1 19336号 日刊七面
 東京外語の頃(中) 有島生馬
- 1940.2.2 19337号 日刊七面
 東京外語の頃(下) 有島生馬
- 1940.2.13 19348号 日刊四面
 雄々しい少年義勇隊 満洲を觀察して
 林美美子
- 1940.2.15 19350号 日刊四面
 満洲の文学界の現象(1) 山田清三郎
 満系作家の動き
- 1940.2.16 19351号 日刊四面
 満洲の文学界の現象(2) 山田清三郎
 古丁氏等と作品
- 1940.2.18 19353号 日刊九面
 宣撫工作の大任帯び 紙芝居が大陸へ興亜
 院、軍当局が斡旋 捕虜君も満悦
 アサヒ紙芝居 山西の宣撫に殊勲
- 1940.2.25 19360号 日刊九面
 電話で初めて日本語をつかう
 米国に留学していた伊澤氏
- 1940.2.29 19364号 日刊二面
 海外の熱望に応え 日本語の輸出
 国際文化振興会の八年計画
- 1940.3.4 19368号 夕刊四面
 言語問題昨今の容体(1) 石黒魯平
 一輸出用の日本語一
- 1940.3.5 19369号 夕刊四面
 言語問題昨今の容体(2) 石黒魯平
 一外語教育の是非一
- 1940.3.6 19370号 夕刊四面
 言語問題昨今の容体(3) 石黒魯平
 一識者層の迷信一
- 1940.3.15 19379号 日刊二面
 □憧れの日本へ大陸から興亜の男女留学生
- 1940.3.20 19384号 夕刊四面
 □民国の留日学生(上) 七里重恵
- 1940.3.21 19385号 夕刊四面
 □民国の留日学生(下) 七里重恵
- 1940.3.25 19389号 夕刊四面
 沖縄の標準語励行に関して(1)
 清水幾太郎 方言是非の論争
- 1940.3.26 19390号 夕刊四面
 沖縄の標準語励行に関して(2)
 清水幾太郎 中央文化と地方
- 1940.3.27 19391号 夕刊四面
- 沖縄の標準語励行に関して(3)
 清水幾太郎 政策強化の現象
- 1940.4.5 19399号 日刊七面
 大陸向け日本語教師
 大量に養成し興亜第一線へ
- 1940.4.11 19405号 日刊七面
 大繁盛の支那語学校
 新興亜学院に押し寄せた三百名
- 1940.4.15 19409号 夕刊四面
 医学大会の収穫(1) 橋爪恵
 軍陣医学の躍進
- 1940.4.16 19410号 夕刊四面
 医学大会の収穫(2) 橋爪恵
 戦時下の好題目
- 1940.4.17 19411号 夕刊四面
 医学大会の収穫(2) 橋爪恵
 医学の社会化
- 1940.4.29 19419号 夕刊四面
 ラヂオの進出
 世界に網を張る通信組織 芦田均
- 1940.5.4 19428号 夕刊四面
 達者な日本語 支那の女学生
- 1940.7.5 19492号 日刊三面
 満洲国皇帝陛下 日本語を御勉強
 ひとしお深き我が皇室へのご崇敬
- 1940.7.5 19490号 日刊六面
 戦死する兵隊
 戦線三度目の事変記念日 火野葦平
- 1940.7.16 19501号 日刊一面
 満洲国、天照大御神奉祀 建国神廟を創建
 皇帝陛下、詔書を渙発、今日弘暎鎮座蔡
- 1940.8.16 19532号 日刊六面
 小説文藝における会話(上) 石黒修
 方言の妙味
- 1940.8.17 19533号 日刊六面
 小説文藝における会話(下) 石黒修
 日本語の特性
- 1940.9.16 19533号 日刊三面
 消える標示板の英語
 全国の駅に日本文字のみ
- 1940.10.1 19578号 日刊二面
 仏印 早くも日本語熱 街と村の親善風景
- 1940.10.4 19581号 日刊二面
 日本語の再建に 方言の研究会生れる
- 1940.10.8 19585号 日刊四面
 満洲国・建国神廟の創建(上) 宮地直一
 国本惟神の道
- 1940.10.9 19586号 日刊四面
 満洲国・建国神廟の創建(下) 宮地直一
 大方則の確立

- 1940.10.15 19592号 日刊四面
方言問題の統一について(上)
柳田国男 一標準語の意味一
- 1940.10.16 19593号 日刊四面
方言問題の統一について(中)
柳田国男 一よい言葉遣い一
- 1940.10.17 19594号 日刊四面
方言問題の統一について(下)
柳田国男 一目下の急務一
- 1940.10.27 19603号 日刊四面
アジア人の手で 東亜共栄圏 平和な世界
を建設 軍馬や軍犬 慰問しましょう
紙上の慰問袋一兵隊さんと子供の欄一
- 1940.12.5 19642号 日刊四面
国民学校と家庭教育 学校では「ボク」、家
では「オレ」 難しい話し方の指導
- 1940.12.10 19647号 日刊四面
大地散記 哈爾濱だより(上) 三井実雄
- 1940.12.11 19648号 日刊四面
大地散記 哈爾濱だより(下) 三井実雄
- 1940.12.18 19655号 日刊四面
国民国語の確立
速やかに建設機関を設けよ 大西雅雄
- 1940.12.18 19655号 日刊七面
火花散らす文化戦士 満場一致で“假名の
名称改正”
- 【1941年】 昭和16年 皇紀2601年**
- 1941.1.7 19674号 日刊四面
日本精神と本居宣長(上)
古事記伝の精読 山田孝雄
- 1941.1.8 19675号 日刊四面
日本精神と本居宣長(下)
道を行う心得 山田孝雄
- 1941.1.8 19675号 夕刊四面
職場の親善 新支那女性の日記
たのしい日本語の勉強 広東日語学校研
究科馮燕卿
- 1941.1.14 19681号 夕刊四面
職場の親善 新支那女性の日記 私と日本
語 蘇州放送局アナウンサー 姚徳永
- 1941.1.14 19681号 日刊四面
仮名の改良案について(1) 国語問題の検討
山本有三 一不穏当な呼称一
- 1941.1.15 19682号 日刊四面
仮名の改良案について(2) 国語問題の検討
山本有三 一カナモジの価値一
- 1941.1.16 19683号 日刊四面
仮名の改良案について(3) 国語問題の検討
- 山本有三 一漢字まじり文へ一
- 1941.1.17 19684号 日刊四面
国語問題の検討 二つの重要策
「仮名枢軸論」の提唱(上) 新村出
- 1941.1.18 19685号 日刊四面
国語問題の検討 資格の向上へ
「仮名枢軸論」の提唱(下) 新村出
- 1941.1.19 19686号 日刊四面
国語問題の検討 共栄圏の日本語
今後の新しい展開(上) 石黒修
- 1941.1.21 19688号 日刊四面
国語問題の検討 根本対策の樹立
今後の新しい展開(下) 石黒修
- 1941.1.22 19689号 日刊四面
国語問題の検討 諸問題を解決 日本点字
より見たる仮名 大河原欽吾
- 1941.1.23 19690号 日刊四面
国語問題の検討 「かな」の提唱 是非平
仮名に一定したい 吉澤義則
- 1941.1.24 19691号 日刊四面
国語問題の検討 「カナ」の語源 外交文
字としての「和字」 吉澤義則
- 1941.1.25 19692号 日刊四面
国語問題の検討 古井伝統を持つ 「かな」
の文字とその名 吉澤義則
- 1941.1.29 19696号 日刊東京版一面
国語問題論議 貴族院本会議
- 1941.2.13 19701号 日刊四面
南進日本の映像 飛南の旅から帰った長谷
川時雨女史の話(上)
よく働く広東の女 まだ街に姿を見せぬ上
流の人々 夏のような海南島
- 1941.2.14 19702号 日刊四面
南進日本の映像 飛南の旅から帰った長谷
川時雨女史の話(下)
黎族の子供が“コンニチワ” 海南島から台
湾へ
- 1941.2.26 19724号 日刊三面
きれいなご本 出来ました
国民学校の教科書
- 1941.2.27 19725号 日刊三面
教科書から見た国民学校①
エホンの歴史 生かす子供の創造力
- 1941.2.28 19726号 日刊三面
教科書から見た国民学校②
ヨイコドモの巻 ワタクシの実践
全巻に躍る生活記録
- 1941.3.1 19727号 日刊三面
教科書から見た国民学校③
ヨイコドモの巻 日常に訓す孝行

- 昔話の教材はやめる
1941.3.2 19728号 夕刊四面
曳光弾「ハナシコトバ」大西雅雄
- 1941.3.2 19728号 日刊三面
教科書から見た国民学校④ ヨミカタの巻
言葉より突入 発表力、理解力に重点
- 1941.3.3 19729号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑤
- 1941.3.4 19730号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑥
カズノホンの巻 実物計算に重点
お伽話でも数の変化を
- 1941.3.5 19731号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑦
カズノホンの巻続 考え方を暗示
科学の芽を育てる
- 1941.3.5 19731号 夕刊四面
仏印遠からずの感 日に増し見かける街の
邦人 惨めな安南人・雄大な植物
- 1941.3.6 19732号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑧ 自然の観察の
巻 季節追う理科 生かすコドモの観察
- 1941.3.7 19734号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑨ 自然の観察の
巻続 “匂い”も一教材 音感とも関連の理科
- 1941.3.8 19734号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑩ ウタノホンの
巻 歌は即ち生活 曲譜も絵も嬉し楽し
- 1941.3.8 19734号 日刊三面
興亜行進曲に咲き乱れる日支の青春群像
鋏を揮う「日本の女性」海外紹介の新しい
映像
- 1941.3.9 19735号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑪ エノホンの巻
絵にも国防色 標準色はまず色紙で
- 1941.3.10 19736号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑫ 工作とテホンの
巻 工作に“生産性”習字には魂を注入
- 1941.3.11 19737号 日刊三面
教科書から見た国民学校⑬ 編修と挿絵の
苦心 鬼の顔も優しく親しみを狙った挿絵
- 1941.3.11 19737号 夕刊四面
新教科書の検討
「ヨミカタ」の批判(上) 波多野完治
- 1941.3.12 19738号 夕刊四面
面白味の誘発性
「ヨミカタ」の批判(中) 波多野完治
- 1941.3.13 19739号 夕刊四面
「錬成」の方向
- 「ヨミカタ」の批判(下) 波多野完治
- 1941.4.6 19762号 夕刊四面
新村出博士著『国語問題正義』東條操
- 1941.4.13 19769号 日刊四面
シナニモハルガキタ タノシイコドモ
(支那にも春が来た 楽しい子供)
- 1941.4.17 19773号 日刊四面
教科書の粗悪さ
支那文化と支那語(上) 一戸務
- 1941.4.18 19774号 日刊四面
古文へのつながり
支那文化と支那語(下) 一戸務
- 1941.4.22 19778号 日刊五面
日華文人の交驛(一) 佐藤春夫
周、銭両先生を語らんとして
- 1941.4.22 19778号 日刊五面
【曳光弾】名詞の標準化 保井コノ
- 1941.4.23 19779号 日刊五面
日華文人の交換(二) 佐藤春夫
周、銭先生を語らんとして
- 1941.4.27 19783号 日刊四面
ワタシオウマガダイスキデス
(わたしお馬が大好きです)
- 1941.5.11 19797号 日刊四面
ヨコヅナドヘウイリ(横綱の土俵入り)
センセンノナツバシヨ(戦線の夏場所)
- 1941.5.13 19799号 日刊四面
【読書標】口語辞典はないか
- 1941.5.14 19800号 日刊二面
“こちらはパラオ”
市内に劣らぬ“声”の開通式
- 1941.5.18 19804号 日刊四面
タイコクノカンペイシキ(タイ国の監兵式)
コドモハオホヨロコビ(子供は大喜び)
- 1941.6.5 19822号 日刊四面
国語問題の国家的処理(1)
倉野憲司 文部省の方針
- 1941.6.6 19823号 日刊二面
“支那”の呼称廃止
翼賛会東亜局でまず提唱
- 1941.6.6 19823号 日刊四面
国語問題の国家的処理(2)
倉野憲司 国語課の事業
- 1941.6.7 19824号 日刊四面
国語問題の国家的処理(3)
倉野憲司 漢字の整理
- 1941.6.8 19825号 日刊四面
国語問題の国家的処理(4)
倉野憲司 国語の対外普及
- 1941.6.26 19843号 日刊五面

- 親善譜 日本語の号令で訓練
張り切る泰空軍の滑空
1941.7.11 19858号 日刊三面
大東亜国際語樹立の為に(1)
石黒魯平 外人と日本語
1941.7.12 19859号 日刊三面
大東亜国際語樹立の為に(2)
石黒魯平 日本語の教師
1941.7.13 19860号 日刊三面
大東亜国際語樹立の為に(3)
石黒魯平 総監部の確立
1941.8.8 19886号 日刊三面
「臣民の道」を読む(上) 吉田龍次
1941.8.9 19887号 日刊三面
「臣民の道」を読む(中) 吉田龍次
1941.8.10 19888号 日刊三面
「臣民の道」を読む(下) 吉田龍次
1941.10.27 19965号 日刊二面
勇士も面食らう“切符制便所”
親日色に塗られたハイフォン
1941.11.8 19977号 日刊三面
◎日伯文化協定発効を祝して(上)
田中耕太郎 文化上の認識
1941.11.9 19978号 日刊二面
□外人留学生に“日本人の心” 四千人を指
導する温かい方針決まる
1941.11.9 19978号 日刊三面
◎日伯文化協定発効を祝して(中)
田中耕太郎 我が先覚の業績
1941.11.9 19978号 日刊三面
外来語 石黒修
1941.11.12 19981号 日刊三面
◎日伯文化協定発効を祝して(下)
田中耕太郎 学び合うところ
1941.11.18 19987号 日刊四面
阪谷子爵と日本語(上) 松宮一也
南洋群島と文化 小尾範治
1941.11.19 19988号 日刊四面
阪谷子爵と日本語(下) 松宮一也
1941.11.28 19997号 日刊三面
◎戦う海越えて 七つの日本賛歌
- 蘇る大東亜 平和来るに拍手
歓喜のマレー三民族
1942.1.9 20039号 日刊四面
「軍票」大もて 日本語も“マニラ進駐”
1942.1.12 20042号 日刊四面
◎四つの戦争文学：民の道、肉体の戦記、
風も緑に、高原列車 中野好夫
南方語 独習書と辞典
1942.1.13 20043号 日刊四面
◎戦時提言 評論家愛国大会を機会に(上)
文章報国の責務 杉森孝次郎
1942.1.15 20045号 日刊四面
◎東南アジア民族の文化と宗教(上)
宇野円空 宗教文化の影響
1942.1.16 20046号 日刊四面
◎東南アジア民族の文化と宗教(中)
宇野円空 固有の生活文化
1942.1.17 20047号 日刊四面
◎東南アジア民族の文化と宗教(下)
宇野円空 民族統合の根底
1942.1.18 20048号 日刊二面
号令も日本語のインド人警官
朗色溢る、新生香港
1942.1.28 20058号 日刊四面
南方の言語について(上) 泉井久之助
開かれたる門戸
1942.1.29 20059号 日刊四面
南方の言語について(下) 泉井久之助
研究の秋到来
1942.1.30 20060号 日刊四面
◎大東亜建設と教育(1) 速水混
我等の使命や大
1942.1.31 20061号 日刊四面
◎大東亜建設と教育(2) 速水混
気宇を大にせよ
1942.2.1 20062号 日刊四面
◎大東亜建設と教育(3) 水混
大国民の養成へ
1942.2.3 20064号 日刊四面
◎旧秩序の撃滅へ
大東亜戦争の文化戦線 奥村喜和男
1942.2.4 20065号 日刊四面
目立つ日本語貼紙
新生一箇月 マニラの息吹
わが戦史と今次南方作戦(1) 高柳光濤
正義日本の底力
1942.2.5 20066号 日刊四面
◎わが戦史と今次南方作戦(2) 高柳光濤
皇軍戦略の妙
1942.2.7 20068号 日刊四面
- 【1942年】 昭和17年 皇紀2602年
1942.1.4 20034号 日刊四面
八十七種の言語 比律賓人について(上)
三好朋十
1942.1.5 20035号 日刊四面
【書評】佐伯功介著『国字問題の理論』
倉野憲次

- ◎わが戦史と今次南方作戦 (3)
高柳光濤 雄渾なる大理想
1942.2.14 20075号 日刊四面
- ◎新嘉坡追想 ニッポン・サムライと二葉亭四迷 吉川英治
1942.2.18 20079号 夕刊一面
「昭南島」と輝く日本名 新嘉坡島を改称
1942.2.18 20079号 日刊三面
滑り出した港都「昭南」英人の出直し まず日本語から 教科書でも「シ島」は改名
1942.2.21 20082号 夕刊一面
【鉛筆】ニッポン
1942.2.22 20083号 日刊三面
戦線で流暢な日本語と奇遇 兵を語らぬ敗軍の将 しみじみ慕う若き日の日本
1942.2.22 20083号 日刊三面
迷う皇軍に道案内 挺身誓う比島の青年
1942.2.22 20083号 日刊四面
◎重要な文化工作 南方より帰りにて (5)
千葉雄次郎
1943.3.4 20093号 日刊四面
外字紙にも「日本語調」昭南島に響く復興の快音 準常用漢字
1943.3.4 20093号 日刊四面
◎ヒンズー文化 制圧下の蘭印文化と統治 (一) 原徹郎
1942.3.9 20098号 日刊一面
“同族同租の民衆安居”
皇軍、東印度に軍政を布告す
1942.3.9 20098号 日刊四面
【書評】石黒修著『日本語の世界化』神保格
1942.3.17 20106号 日刊四面
早くも消えた暗い影
“日本軍は太陽”と回教徒も協力
復活するバタビヤ
最も有効な武器
南方の文化工作と音楽 堀内啓三
1942.3.17 20106号 日刊二面
日本語の小切手
比島金融界の朗色
1942.3.20 20109号 日刊三面
日章旗の下ジャバの建設進む
入城の途端万歳攻め
軍政第一歩にスマランの熱狂
南方へ「日本語早わかり」
1942.3.18 20107号 日刊四面
◎日華文化の提携について (上) 周作人
中国文学の動向
1942.3.19 20108号 日刊四面
- ◎日華文化の提携について (下) 周作人
文化の根底は一
1942.3.20 20109号 日刊四面
◎大東亜共栄圏の建設と芸能 (1) 河竹繁俊
重要な“心の糧”
1942.3.21 20110号 日刊四面
◎大東亜共栄圏の建設と芸能 (2) 河竹繁俊
指導精神の確立
1942.3.22 20111号 日刊四面
◎大東亜共栄圏の建設と芸能 (3) 河竹繁俊
蒐集保存の要
1942.3.21 20110号 日刊四面
◎日華科学の提携について (1) 佐藤秀三
寂寞たる中支
1942.3.22 20111号 日刊四面
◎日華科学の提携について (2) 佐藤秀三
隠れた学者達
1942.3.23 20112号 日刊四面
◎日華科学の提携について (3) 佐藤秀三
文化の育成へ
1942.3.24 20113号 日刊二面
起った共栄圏の女性 皇軍にお手伝い
バダビヤの和蘭娘達
1942.3.29 20118号 夕刊一面
馬來の華僑更生 共栄圏建設に協力
1942.4.1 20121号 日刊四面
◎新日本文学の建設 (上) 板垣直子
1942.4.2 20122号 日刊四面
◎新日本文学の建設 (中) 板垣直子
1942.4.3 20123号 日刊四面
◎新日本文学の建設 (下) 板垣直子
1942.4.7 20126号 日刊四面
民族の黎明来る 上陸一箇月後のジャバ
バンドンにて 武田麟太郎
1942.4.8 20127号 日刊四面
マレー人学童から日本の皆様へ 私達を教
えて下さい クチンから可憐な手紙と絵
1942.4.9 20128号 日刊四面
◎文化の保護へ 昭南島一箇月の旅 (1)
昭南島にて 田中館秀三
1942.4.9 20128号 日刊四面
◎パゴダの国ビルマ (上) 立花俊造
1942.4.10 20129号 日刊四面
◎植物園と博物館 昭南島一箇月の旅 (2)
昭南島にて 田中館秀三
1942.4.10 20129号 日刊四面
◎パゴダの国ビルマ (下) 立花俊造
1942.4.11 20130号 日刊四面
◎保護された図書 昭南島一箇月の旅 (3)
昭南島にて 田中館秀三

- 1942.4.11 20130号 日刊四面
◎ビルマのクン族(上) 国分昭三
- 1942.4.12 20131号 日刊四面
◎驚くべき建設力 昭南島一箇月の旅(4)
昭南島にて 田中館秀三
- 1942.4.12 20131号 日刊四面
◎ビルマのクン族(下) 国分昭三
- 1942.4.13 20132号 日刊二面
【社説】南方建設の軍政方針
- 1942.4.14 20133号 日刊四面
なつかしい風物
親しみやすいジャバの印象 武田麟太郎
- 1942.4.17 20136号 日刊三面
戦争と子供 凄いなあ日本の荒鷲 兵隊さんは頭を撫でてくれる 近寄ると怒る英兵 昭南島の少年達に聴く
- 1942.4.17 20136号 日刊四面
◎文学者の報道文について(1) 保田興重郎
国家への使命
- 1942.4.18 20137号 日刊三面
日の丸の下喜色溢れる原住民 張り切る歌声 君が代 昭南市・マレー人の小学校開く 甘いぞ、兵隊さん声援 老いも若きも楽しむ蹴球大会 スマトラ
スマトラ縦断記 日本文字の“進め・止め”
- 1942.4.18 20137号 日刊四面
◎文学者の報道文について(2) 保田興重郎
新しき契点へ
- 1942.4.19 20138号 日刊四面
◎文学者の報道文について(3) 保田興重郎
新しい日本文学へ
- 1942.4.21 20140号 日刊四面
【特集】日本語の南方進出
南方語との親縁 最近約二十年間の成長
新村出
教科書の編纂 新文化の建設へ 国語の整備こそ急務 石黒修
教師と教授法 挺身・協力の要 西尾實
文化語としての日本語 木村新
- 1942.4.23 200142号 日刊四面
教えれば育つ彼ら 本質現わしたインドネシア人 皇軍庇護に明るい日
- 1942.4.28 20147号 日刊四面
南方地名の改称について(2) 小倉進平
音訳か、意識か
- 1942.4.30 20149号 日刊四面
南方地名の改称について(3) 小倉進平
戒心すべき問題
- 1942.5.4 20153号 日刊三面
ジャバを染める日本色
- 1942.5.6 20155号 日刊四面
日本語の彫琢 国民詩とその朗読(3)
北村喜八
- 1942.5.11 20160号 日刊四面
【特輯】南方より日本に寄す
偉大なる愛国心 日本女性と武士道
マニラにて フリオ・ルス博士
新秩序の達成へ 日本精神との融合
泰国 ピヤプリチャ・ヌサック
戦争は有益な先生
一夜で変わった私たちの世界
マニラ リディア・アルギリア
*この時期、マレー軍報道班員里村欣三による戦記小説「熱風」が連載さる
- 1942.5.12 20161号 日刊四面
ジャバの洋楽界 飯田信夫
南方の音楽工作について(1)
- 1942.5.13 20162号 日刊四面
楽団編成の要 飯田信夫
南方の音楽工作について(2)
- 1942.5.14 20163号 日刊四面
肥沃な処女地 飯田信夫
南方の音楽工作について(3)
- 1942.5.17 20166号 日刊二面
馬來語検討(著者不明)
- 1942.5.18 20167号 日刊四面
◎旧制度の打破へ 現代安南文学について
(上) サイゴンにて 文環
- 1942.5.19 20168号 日刊四面
◎未来への希求 現代安南文学について
(下) サイゴンにて 文環
- 1942.5.23 20172号 日刊四面
先ず製作させよ 上野一郎
南方の映画工作について(1)
- 1942.5.24 20173号 日刊四面
科学日本の真価 上野一郎
南方の音楽工作について(2)
- 1942.6.2 日刊四面
◎大東亜戦下・文学の方向(1) 中村光夫
貴重なる自信
【南方案内】①マレー語独習書
- 1942.6.3 日刊四面
◎大東亜戦下・文学の方向(2) 中村光夫
我民族の若き血
- 1942.6.4 日刊四面
◎大東亜戦下・文学の方向(3) 中村光夫
先人苦闘の賜
【南方案内】②講習会の注意
- 1942.6.11 20190号 日刊二面
お嬢さん部隊 昭南港に一番乗り

- 1942.6.13 20193号 日刊二面
 宣伝隊の見たジャバ島民
 大袈裟なもののお好き
 喜ぶ荒鷲や神宮競技の映画
 働く日本女性に驚嘆
- 1942.6.16 20196号 日刊四面
国際日本語確立の根底 (1) 石黒魯平
わが文化の体感
- 1942.6.17 20197号 日刊四面
国際日本語確立の根底 (2) 石黒魯平
共栄理念の神髄
- 1942.6.18 20198号 日刊四面
国際日本語確立の根底 (3) 石黒魯平
精神体制再構成
- 1942.6.19 20199号 日刊二面
 原住民達も感激
 日本人の精神力
 マレー軍政部長の視察団
- 1942.6.19 20199号 日刊四面
 各方面の要望「簡易字体」について
 吉田澄夫
【南方余談】③ ことばの混戦 北村小松
- 1942.6.29 20209号 日刊二面
 支那事変第五周年記念
 大東亜戦戦利飛行機展観
- 1942.6.30 20200号 日刊四面
【南方から銃後へ】 兵隊さん大喜び 鮮かな日本の童話や軍歌ビルマ人の慰安音楽会
- 1942.7.1 20201号 日刊四面
【国語のこころ】(1) 山田正紀
 海外普及の諸問題
- 1942.7.2 20202号 日刊四面
【国語のこころ】(2) 山田正紀
八紘に輝く大使命
- 1942.7.3 20203号 日刊四面
【国語のこころ】(3) 山田正紀
生命体験の教育へ
- 1942.7.17 20127号 日刊二面
 “日本へはぜひ行きたい”若き安南王・
 快く会見、本社献上のお人形に満悦
 新生ジャバ点描 日本軍に秘薬あり
 あまりの強さに原住民の驚き
- 1942.7.18 20128号 日刊三面
 横書きは左からに統一 仮名遣いは発音通り
 教科書や駅名も改正
- 1942.7.21 20131号 日刊四面
 ジャバのフクチャン
 マレーへ行ったら先ずマレー語から始めよ
 中村研一
 南方案内 蘭語の速習書
- 1942.7.21 日刊四面
字音仮名遣いの整理について (上)
安藤正次 二十年來の懸案
- 1942.7.22 日刊四面
字音仮名遣いの整理について (下)
安藤正次 正に実行の好機
- 1942.7.26 20136号 夕刊二面
 盟主“日本の姿”国際文化振興会
 共栄圏に新冊子配布、日本グラフ刊行
 *この時期、徳川義親「馬來縦断記」連載
- 1942.8.3 日刊三面
 号令も日本語で
 俘虜もいまではジャバの防衛戦士
- 1942.8.8 20149号 日刊三面
 文士の仕事 文章報国の道
 武者小路実篤
- 1942.8.19 20260号 夕刊一面
○南方、日本語普及案成る
文部省に普及協議会(仮称)設置、教科書編纂、教員を養成、教科書は地域別
今秋、教員五百名の講習会
- 1942.8.19 20260号
日本語の普及に便宜主義は不可
笠井氏が語るコツ
- 1942.8.27 日刊四面
 学術語の日本化
 全国民の協力を提唱 吉田弥三
- 1942.8.30 日刊四面
◎【特輯】われ等かく戦えり
 文化機関：阿部知二氏
 東亜人の手で ジャバ精神を活かせ
 映画：大宅壮一氏
 民心を掴んだめざましい戦闘報告
 演劇：武田麟太郎氏
 農村へ街々へ わが変わった慰安部隊に揚る凱歌
 音楽：飯田信夫氏
 “動く言葉”の効果 原住民の努力に応えよ
- 1942.9.2 20174号 日刊四面
生活問答：南方向け日本語教員
- 1942.9.3 20175号 日刊二面
日本語以外は使わぬ週間
二画伯が語るマニラの朗色
- 1942.9.15 日刊四面
【南方から銃後へ】細腕に家を支う
 美しいフィルム三人姉妹
- 1942.9.16 日刊四面
【南方から銃後へ】働くビルマの女性 イラシャイマセ 片言で愛嬌ふりまく食堂娘
- 1942.9.30 20301号 日刊四面

- 朗読文学の提唱**
日本語純化に一つの示唆 日比野士朗
 1942.10.2 20303号 日刊三面
 文化工作の戦士来たれ
 南方建設に陸軍で募集
 ウタノエホン 大東亜共栄唱歌集編纂
 歌詞懸賞募集
 1942. 10.6 日刊四面
よい日本語で歌え 南方への音楽文化政策
 1942.10.8 20309号 日刊二面
日本国語會 逞しい発足
 *この頃、吉川英治「南方圏を一翔して」
 が連載さる
 1942.10.8 20309号 夕刊二面
南へ「エホンニッポン」
 1942.10.14 20315号 日刊三面
 “声”に結ぶ共栄圏
 下村氏の司会で楽しい座談会
 1942.10.15 20360号 日刊三面
 米寿を祝うローマ字の本
 田中館博士の記念事業に海外へ
 1942.10.20 20321号 日刊一面
 現地軍の管理下に南方に邦字新聞
 各社、地域を分担発行
 1942.10.22 20323号 日刊三面
全ビルマ、盟主日本に傾倒 澎湃たる日本語熱 教材払底に嬉しい困惑
 挺身奉公の意気、幹候生に染む日本精神
 南方で大歓迎、本社発行のグラフ『太陽』
 1942.10.22 20323号 日刊三面
 南方へ行く教員 文部省で百名募集
 1942.10.23 日刊四面
再び南方より帰りて(四) 千葉雄次郎
日本語の進出
 1942.11.9 日刊二面
 東條さんへジャワから童心激励文 “東亜のために頑張れ” 習い憶えた日本語に滲む真情 きっとお返事を 東條さんから感激のお約束
 1942.11.11 20343号 夕刊一面
 鉄筆 南方の羅馬字
 1942.11.25 20358号 日刊四面
【南方日本語普及の一年①】
 原住民の要望 昭南市(上) 神保光太郎
 1942.11.26 20358号 日刊三面
 南征拾遺① 松本関雪
 文字、日の出、紙芝居
 大東亜戦争一周年国民決意の標語
 入選発表
 “一緒に楽しい東亜を築こう”
 首相、南の子供へご返事の贈物
 1942.11.27 20359号 日刊三面
 南征拾遺② 松本関雪
 パナナの木 こぶ牛 落下傘部隊
 1942.11.28 20360号 日刊三面
 南征拾遺③ 松本関雪華僑
 1942.11.26
【南方日本語普及の一年②】
 正しい始動へ 昭南市(下) 神保光太郎
 1942.11.27
【南方日本語普及の一年③】
 つよく深く 科学的な教授法を考えよ
 バダビヤ 南秋好
 1942.11.28
【南方日本語普及の一年④】
 教材が欲しい 比島(上) 西之原末盛
 1942.12.1
【南方日本語普及の一年⑤】
 熱心な住民達 比島(下) 西之原末盛
 1942.12.2
【南方日本語普及の一年⑥】
 実用一点張り スラバヤ(上) 橋正観
 1942.12.3
【南方日本語普及の一年⑦】
 指導の三要素 スラバヤ(下) 橋正観
 1942.12.4
【南方日本語普及の一年⑧】
 熱心な支那娘 馬來(上) 花岡肇
 1942.12.9
【南方日本語普及の一年⑨】
 願望に応えよ 馬來(下) 花岡肇
 1942.12.10
【南方日本語普及の一年⑩】
 日本を知るために
 チャンタラナコラ・ワラワン
 1942.12.11
【南方日本語普及の一年⑪】
 量よりも質へ
 チャンタラナコラ・ワラワン
 1942.12.12
【南方日本語普及の一年⑫】
 教授法に一苦勞 マライ 廣田茂信
 1942.12.15
【南方日本語普及の一年⑬】
 習得に一苦勞 安南(1) 鈴木健郎
 1942.12.16
【南方日本語普及の一年⑭】
 平仮名を喜ぶ 安南(2) 鈴木健郎
 1942.12.17
【南方日本語普及の一年⑮】

助詞は厳密に 安南 (3) 鈴木健郎
1942.12.18
【南方日本語普及の一年⑯】
“桃太郎”を上演 ビルマ (上) 上田天瑞
1942.12.19
【南方日本語普及の一年⑰】
文法の質問続出 ビルマ (下) 上田天瑞
1942.12.20 20382号 夕刊一面
大日本言論報国会を結成
皇国思想体制を確立
23日創立総会関係者一千名を糾合
思想戦必勝の備え 大東亜全域に活動
1942.11.28 日刊四面
【働く南支の女性】 ① あこがれの心を
「日本語」に託して 姑娘の見習い看護婦
1942.12.17 日刊四面
**【南方から銃後へ】日本語も上手に
ビルマ少年は伸びる**
1942.12.24 20386号 日刊四面
【南方雑感】 徳川義親
本来の姿へ返せ—教育と日本語の問題
1942.12.23 20385号 日刊三面
◎紙面一杯に漲る文化の息吹
本社担当南方の両新聞第一号
1942.12.25 20387号 日刊四面
【南方雑感】 徳川義親
すべて実行の秋
—映画・音楽・舞踏・放送の問題
1942.12.27 20389号 夕刊四面
□戦時下の南方留学生
大東亜の共栄へ 真摯な協力の意気
渡邊知雄
今後への期待 再生の道を知らしめよ
大屋源幸
アジアの希望 留学生諸君への言葉
秋山謙蔵
1942.12.29 20391号 日刊四面
【南方雑感】 徳川義親
手堅い建設—宗教と民族研究の重要性
1942.12.29 日刊四面
◎日本人に慕いよるインドネシアの子供達
美川・林両女史の南の印象

【1943年】 昭和18年 皇紀2603年
1943.1.6 20398号 日刊三面
見たい知りたい
□マライから初めて留学生来る
1943.1.9 20401号 夕刊二面
原住民の日本語大会

昭南市軍政監部文教課主催
1943.1.10 20402号 日刊三面
□共栄圏からの留学生
六割は科学技術系統志望
三千の俊秀学徒ら日夜研鑽
1943.1.12 20404号 日刊三面
女性に南方講座 日本外政協会
1943.1.13 20405号 夕刊二面
講演会「大陸の夕」、大陸建設社
1943.1.17 20409号 夕刊二面
□共栄圏留学生招待会
女性新生会主催、目黒雅叙園にて
1943.1.15 20407号 日刊三面
◎ジャワに花開く 日本歴史
原住民、上梓を待ち侘びる
1943.1.15 20407号 日刊三面
昭南で日本語演説会
1943.1.16 20408号 日刊三面
仏印へ文化の使い
□日本側初の交換学生決まる
1943.1.22 20413号 日刊一面
興亜教育振興へ 25団体を統合
興亜教育事業団体協力会結成
1943.1.22 20413号 日刊三面
大陸文化振興会誕生
日本文学報国会開拓文学委員会
1943.1.22 20414号 日刊三面
**南へ日本語教師
年齢の幅も広く六百名を募集**
1943.1.29 20421号 日刊三面
絵筆を執るマライの乙女
「蘭」にさとる日本婦人の風流
1943.2.6 20419号 日刊三面
血書志願や七十翁
南方派遣教員銜始まる
1943.2.7 20430号 日刊三面
□“参戦の喜び” 中国留学生座談会
1943.2.20 20443号 日刊三面
日本の方は進取的
□仏印から交換学生が来朝
1943.2.20 20443号 日刊三面
日本音楽を送って建設
南方文化工作の方針を開明 奥村次長
1943.2.25 20448号 日刊三面
在日満洲学生の懇談会
1943.1.22 20414号 夕刊二面
□仏印の交換学生6名出発
1943.1.25 20417号 日刊二面
□交歓仏印学生と懇談
1943.2.28 20451号 夕刊二面

- 南方各地の留日学生座談会
 1943. 2.2 20425号 日刊三面
 電話に聴くセレベス歴史の一年
 片言日本語の氾濫 原住民が忠魂碑建立
 1943. 2.21 日刊一面
南方国語を純化 貴院予算総会
 1943. 2.23 日刊三面
南へ征く日本語教師
女子五十名も混じって合格者決まる
 1943.3.4 20456号 日刊四面
【学校問答】マライ語 学校と講習会
 1943. 3.9 20460号 日刊三面
 ◎伸びゆく大東亜 育てますヨイコを
 ジャワの先生たちは弛まぬ勉強
 1943.3.16 20467号 日刊三面
 伸びゆく大東亜
 刻苦を通じて生産
 土に親しむ新生中国学生
 児童劇や剣舞 昭南の建設譜
 1943. 3.17 20468号 日刊三面
 童話、伝説も書き綴り 三亜の国から便り
 ジャワ師範生、日本語の交歓求む
 1943.3.21 20472号 日刊二面
ジャワ日本語熟 原住民を圧倒
 1943.3.23 20475号 日刊四面
【監視哨】国語の美 関口存男
 1943.3.24 20475号 日刊三面
 見たいな日本のお相撲
 鍛えるジャワの子供達
 1943.3.26 20477号 日刊三面
 仮名に綴るビルマの熱情
 あの強き日本魂こそ我らが独立の旗印
 学生、乙女らが感激の雄叫び
 「太陽」を教材に勉強するビルマ日本語
 学校
 中国のヨイコ達へ潜艦や偉人の話
近く贈る「日本語読本」
 1943.3.27 20478号 夕刊二面
 南への国旗千旗寄贈 水之江滝子
 1943.4.2 20484号 日刊二面
 南方占領地域から「稀元素」を確保
 委員会設置、開発へ邁進
 1943.4.8 20489号 夕刊二面
 共栄圏へ綴り方施設
 少国民文化協会で準備急ぐ
 1943.4.8 20489号 日刊三面
 伸びゆく大東亜
 サカナにも日本名、種類百五十
 1943.4.10 20491号 夕刊二面
 “ジャワのつどい”開催
 1943.4.13 20494号 日刊四面
 中国の“松陰”に 遅し建国学院
 仏印に溢れる日本品
 1943.4.15 20496号 日刊三面
 新生の昭南に富嶽を再現
 1943.4.17 20499号 日刊四面
 辻詩 山田長政と僕 木下空太郎
 1943.4.21 20502号 日刊三面
南へ正しい日本語
美しい讀本ができる
 1943.5.2 20513号 日刊三面
 座り方も日本式のジャワ娘
 1943.5.3 20515号 日刊四面
 伸びゆく大東亜
 東亜に還る ジャワに文化指揮所
 1943. 5.5 20516号 日刊三面
 幻燈に写す“日本”
 共栄圏へ遅い姿の贈物
 1943.5.7 20519号 日刊四面
 祖国の首相を迎う 林芙美子マニラにて
 詩情をゆすぶるジャワの「うなばら」
 当時 北原武夫
 1943.5.7 20518号 日刊三面
 東條さんの印象を語る比島人
 国語講演会開く 國學院大學
 1943. 5.8 20519号 日刊四面
 ◎【陣中文藝】戦塵の中から マライ・昭
 南の出版物(上) 井伏鱒二
 1943. 5.9 20520号 日刊四面
 ◎【陣中文藝】床しい兵士の歌 マライ・
 昭南の出版物(下) 井伏鱒二
 1943.5.9 20520号 夕刊二面
 辞典は共同で使おう
 1943.5.13 20524号 日刊三面
 ◎南へ日本文学の粹 近代の代表作を七か
 国語に翻訳 『文報』対外活動へ第一歩
 1943. 5.17 日刊三面
カナ文字が先達
「実用四千語」も近く南進
 1943. 5.19 20530号 日刊三面
 作品に結ぶ大東亜のコドモ
 兵隊さんは大好き 日本を慕う南の童心
 1943.5.19 20530号 日刊二面
 □留学生に皇民精神 予備教育機関を拡充
 指導要綱に盛る学校側の要望
 1943. 5.19 20530号 日刊三面
 □留学生はこうして導こう 心の共同生活
 へ 甘やかさず、しかも温かく
 1943. 5.22 20533号 日刊四面
【上海雑記】(五)

- ゆき渡る日本語 橋本関雪**
 1943.5.29 20540号 日刊三面
 南方留学生に寄宿舎 財団法人新興亜会
- 1943.5.30 20541号 夕刊二面
お母さんも懸命
ジャカルタの日本語学校
 1943.6.5 20547号 日刊三面
 中国留学生起つ 霊前へ敵撃滅の誓い
- 1943.6.12 20554号 日刊二面
 ◎中国文学界に逞しき黎明
 語る河上徹太郎氏 重慶から“闘将”還る 本然の心に打つ文化開拓の鐘
- 1943.6.12 20554号 日刊二面
これで互いに解り合う
日泰など会話書四冊が誕生
 1943.6.15 日刊三面
南へゆく日本語の本
立派な文法書が先ず完成
- 1943.6.16 20558号 日刊三面
 比島視察団にこやかに入京
 飛び出す“片言日本語”
 戦う姿を土産に、と胸を張る
- 1943.7.1 20373号 日刊二面
 将来は南方の中堅
 留学生第一陣けさ入京
- 1943.7.3 20575号 日刊三面
南へ「日本の言葉」
 同じ釜の飯を食べてあすの東亜建設へ
 九月初めに開く“留学生の家”
 誓う“共栄圏の人柱”
 陸軍省を訪れた南方留学生
- 1943.7.6 20578号 日刊二面
 南方留学生の入学式
- 1943.7.8 20580号 日刊二面
 「日本」を教え込む家庭寮
 南方女子留学生に邸宅を開放
- 1943.7.9 20581号 日刊二面
南へ行く「日本の言葉」
- 1943.7.18 20590号 日刊三面
 比島留学生第二陣入京
- 1943.7.25 20597号 日刊二面
 昭南に現地人の師範学校を新設
- 1943.7.24 20596号 日刊二面
 留日学生、妙高で夏季訓練
- 1943.7.26 20598号 日刊二面
 中華留学生錬成会、山梨河口湖
- 1943.7.30 20602号 日刊三面
 ビルマから留学生
- 1943.8.21 20624号 日刊三面
 ◎愛国いろはかるた
- 式拾六萬句中から選定
 1943.9.5 20639号 夕刊一面
 南方生活（作者不明）
- 1943.9.7 20641号 夕刊二面
 「稲田の美しさ」椰子があれば南方そっくり、ジャワ視察団入京
- 1943.9.8 20642号 夕刊二面
 日本の心で建設へ
 ジャワ視察団陸海軍を訪問
- 1943.9.11 20645号 日刊三面
 留学生の錬成へ
 “日本人同様”の心構え
- 1943.9.12 20646号 日刊二面
比島 日本語風靡
- 1943.9.13 20647号 日刊四面
 輝く留学生の華
 文化建設につくせよと表彰
 ジャワで巡回映画が大人気
- 1943.9.14 20648号 日刊四面
 ◎大東亜建設と文学者（一）木村毅
 四十年前の盛観
- 1943.9.15 20649号 日刊四面
 ◎大東亜建設と文学者（二）木村毅
 比島に遺す業績
- 1943.9.16 20650号 日刊四面
 ◎大東亜建設と文学者（三）木村毅
 明治文人に学べ
- 1943.10.15 20679号 日刊四面
 比島の新しき黎明に寄す
 東亜理想の復活 比島新文化運動の精神
 M. V. デ・ロス・サントス
- 1943.10.16 20680号 日刊四面
 比島独立後の教育問題（上）大島正徳
 まず国語の統一
- 1943.10.17 20681号 日刊四面
 ◎比島独立後の教育問題（下）大島正徳
 義務教育の徹底
- 1943.11.2 20696号 日刊三面
 伸びゆく東亜 昭南 皇国の尖兵に
 興南奉公会の軍事訓練
- 1943.11.5 20699号 日刊四面
 文化史発展の跡 大東亜会議に寄せて（上）
 和田清
- 1943.11.6 20700号 日刊四面
 今こそ本然の姿へ 大東亜会議に寄せて続
 和田清
- 1943.11.6 20700号 日刊四面
 ◎大東亜共同宣言 石川達三
- 1943.11.25 20719号 日刊四面
 生まん「大東亜文学」「宣言五原則」作品化

- 1943.12.6 20730号 日刊二面
□われらの“共栄圏”東亜留学生の招待会
1943.12.14 20738号 日刊四面
◎あまねき皇化 昭南に見る建設と防衛
(一) 佐藤春夫
1943.12.15 20739号 日刊四面
◎昭南に見る建設と防衛(2) 佐藤春夫
希望の光に充つ
1943.12.17 20741号 日刊四面
◎ジャカルタの建設と防衛(1) 佐藤春夫
みなぎる信頼感
1943.12.18 20742号 日刊四面
◎ジャカルタの建設と防衛(2) 佐藤春夫
重要な兵站基地
【連載】じゃかるたをとめ 21回連載
佐藤春夫 12/1-12/28 夕刊二面

【1944年】 昭和19年 皇紀2604年

- 1944.1.15 20769号 日刊二面
宣伝戦へ一役 共栄圏から筆陣挺身隊
1944.1.29 20783号 日刊二面
血の感激再現 昭南神社へ壁画を献納
1944.2.13 20798号 日刊三面
南方へ“戦う日本”の姿
1944.4.2 20000号 日刊四面
日本語の音声機構 大西雅雄
1944.4.5 20850号 日刊二面
大東文化学院に興亜科
1944.5.5 20880号 日刊二面
南方共栄圏に芽ぐむ新文化
マライ 各地に弾む日本語
1944.5.21 20896号 日刊五面
【戦列断想】築け“言語共栄圏”
南の特性を生かして 金澤庄三郎
1944.7.22 20000号 日刊四面
【国境の民族】チン高地防衛軍
火野葦平・向井潤吉
1944.7.26 20000号 日刊四面
【国境の民族】貧しき丘 同
1944.7.28 20000号 日刊四面
【国境の民族】着物 同
1944.7.29 20000号 日刊四面
【国境の民族】酒づくり 同
1944.8.2 20000号 日刊四面
【国境の民族】精霊 同
1944.8.13 20000号 日刊四面
特集：大東亜戦と詩魂
歌：「万葉」も凌ぐか大きさと深さ
逗子八郎

詩：鉄火に磨かれて 大木惇夫
句：簡素の中に高いひびき
高浜虚子

- 1944.8.16 20000号 日刊四面
祖国をみ射る瞳 絵と文 向井潤吉
1944.9.23 20000号 日刊四面
ビルマ戦線拾遺：火野葦平
1944.10.16 21044号 日刊二面
滅敵の賦 火野葦平
1944.10.20 21048号 日刊三面
大東亜文学者大会代表決まる
1944.11.13 211072号 日刊二面
言わぬ「痛い」の一言 汪精衛
1944.12.11 21100号 日刊二面
戦争と標語 米、ソ連、英国、独
1944.12.17 21106号 日刊二面
特攻隊の劇作なる
1944.12.31 21121号 日刊二面
軍歌、一億特攻隊の歌募集
大政翼賛会、日本放送協会

【1945年】 昭和20年 皇紀2605年

- 1945.1.13 20000号 日刊二面
文部省、蒙疆派遣教員募集
1945.2.16 20000号 日刊二面
我国に「大東亜文学院」文報で文学交流
1945.4.29 20000号 日刊二面
工場防諜 心しよう無意識の裏切り
手紙、電話でも「うっかり」は禁物
1945.5.28 21269号 日刊一面
【社説】抗日支那の植民地化
1945.6.5 20000号 日刊二面
ああ火箭の神々 火野葦平
神雷特攻隊を讃う
1945.6.14 20000号 日刊二面
【戦う子供たち】ハイとエイの敢闘
鈴木源輔
1945.9.21 21382号 日刊三面
国語の「水兵の母」も削除
教科書から不適切な箇所を一掃
1945.10.4 21395号 日刊二面
国際文化振興会の再出発
日本語普及や古典紹介

(2016年10月19日受理)